

問1 日本を7つの地方に区分する考え方において、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府5県が含まれる地方区分を何と呼びますか。 (2021年 山口県公立入試 類似)

1. 中部地方                      2. 近畿地方                      3. 中国・四国地方                      4. 関東地方

問2 滋賀県における気候の地域差について、北部の地点と南部の地点の雨温図に見られる特徴を比較した記述として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 兵庫県公立入試 類似)

1. 北部の地点は冬に降水量のピークがある日本海側の特徴を示すが、南部の地点は夏や台風の時節に降水量が多くなる太平洋側の特徴を示す。                      2. 北部の地点は標高が高いため一年中気温が低いままであるが、南部の地点は冬でも氷点下にならないほど温暖である。                      3. 北部の地点は一年を通して降水量が極めて少ない地中海性気候に近いが、南部の地点は梅雨の時節にのみ降水が集中する。                      4. 北部の地点は冬の季節風を山地が遮るため降水量が減るが、南部の地点は冬に太平洋からの湿った風を受けて積雪量が増える。

問3 日本最大の面積を誇る琵琶湖を擁する滋賀県の地理的・歴史的な特徴を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 茨城県公立入試 類似)

1. 日本海に面した北陸地方の県であり、古くから京都への魚介類の供給路である鯖街道の起点として栄えた。                      2. 県庁所在地を奈良市に置く内陸県であり、琵琶湖から流れ出る淀川の水資源を管理する役割を担っている。                      3. 海に面していない内陸県であり、16世紀には織田信長によって天下統一の拠点となる安土城が築かれた。                      4. 伊勢湾に面した東海地方の県であり、県庁所在地の大津市は東海道新幹線の沿線として急速に発展した。

問4 2017年から2022年にかけて梅干しなどの輸出額が増加傾向にある背景として、日本の生産者が国内外での販路拡大を目指して行っている取り組みについて、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 長野県公立入試 類似)

1. 国内の消費のみに依存するため、伝統的な製法による塩分の高い梅干しの生産に限定し、多言語での宣伝を廃止する。                      2. 消費者の好みの多様化に合わせて、塩分や風味を変化させた加工品を開発し、インターネットなどを活用して直接販売を行う。                      3. 国内市場が飽和しているため、インターネット販売を制限し、特定の地域にある実店舗での販売のみに特化する。                      4. 海外からの安価な輸入品との競争を避けるため、加工品の生産を縮小し、収穫したままの生梅の状態での輸出を行う。

問5 近畿地方の府県別の統計において、農業産出額が1,000億円を超えて他県よりも高く、みかんや梅などの果樹栽培を中心とした農業が盛んな一方、工業製品出荷額は隣接する三重県などに比べて低い傾向にある県はどこですか。 (2018年 熊本県公立入試 類似)

1. 滋賀県                      2. 大阪府                      3. 和歌山県                      4. 京都府

問6 和歌山県南部では、冬でも温暖な気候を利用して梅の栽培が盛んに行われています。この地域の温暖な気候をもたらす要因となっている、太平洋沿岸を北上する暖流と、地域の背後に連なる山地の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2025年 長野県公立入試 類似)

1. 黒潮（日本海流）と紀伊山地                      2. 対馬海流と中国山地                      3. 黒潮（日本海流）と中国山地                      4. 親潮（千島海流）と紀伊山地

問7 滋賀県と全国の農業産出額の内訳を比較した際、全国ではその割合が2割強にとどまる一方で、滋賀県では産出額の半分以上（50%超）を占めている特徴的な農作物はどれですか。 (2015年 長野県公立入試 類似)

1. 果実                      2. 野菜                      3. 畜産                      4. 米

問8 兵庫県の工業について、瀬戸内海の臨海部と、綿織物などの伝統が残る内陸部や諸地域の産業構造を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 兵庫県公立入試 類似)

1. 臨海部では石油化学コンビナートなどの重化学工業が発達する一方、内陸部では地域に根ざした地場産業が受け継がれている。                      2. 内陸部に大規模な石油精製施設が集中する一方、臨海部ではタオルなどのブランド化された繊維工業が中心となっている。                      3. 県内全域で先端技術産業への転換が進んだため、伝統的な地場産業や重化学工業の製造品出荷額は大幅に減少している。                      4. 播磨や阪神の臨海部では伝統的工芸品の生産が中心であり、但馬や丹波の内陸部で重化学工業が発達している。

問9 人口密度、昼夜間人口比率、産業別生産額などを比較した資料において、大阪府に該当する地域の特徴を述べたものとして正しいものはどれですか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)

1. 人口密度が低く、農業・漁業の生産量が他地域に比べて極めて高い傾向にある。                      2. 人口密度が高く、昼夜間人口比率が100%を超えており、昼間の人口が夜間の人口を上回っている。                      3. 人口密度は高いものの、昼夜間人口比率は100%を下回っており、多くの住民が府外へ通勤している。                      4. 昼夜間人口比率がちょうど100%であり、地域内での労働力と居住者のバランスが完全に一致している。

問10 京都府や兵庫県において、製造業の出荷額が高い一方で、農業では野菜や畜産の産出額が上位を占めています。このような農業の形態が発達した理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 兵庫県公立入試 類似)

1. 伝統的な工芸品の原材料となる特殊な作物を栽培するために、地域全体で契約栽培を行っているから                      2. 瀬戸内の温暖な気候を利用して、特定の果実を輸出用に大量生産することに特化したから                      3. 平野部が少なく山がちであるため、広大な土地を必要とする稲作よりも付加価値の高い作物に限定しているから                      4. 京阪神という大消費地が近くにあるため、鮮度が求められる産品を効率よく供給できるから

問11 近畿地方に位置する兵庫県の文化財や地域的特徴に関する記述として、2014年時点の統計に基づいた適切なものはどれですか。 (2017年 京都府公立入試 類似)

1. 建造物の国宝・重要文化財の指定数が全国で4位であり、近畿地方の中でも多くの文化財を保持している。                      2. 面積が全国で4位と非常に広く、その広大な土地の多くが重要文化財の指定範囲に含まれている。                      3. 建造物の国宝・重要文化財の指定数は全国で12位であり、人口や面積の規模に比べて文化財が少ない。                      4. 人口が全国で4位であり、重要文化財の指定数も大阪府や三重県を抑えて全国で最も多い。

問12 大阪市などが位置する地域では、季節風が周囲の山地によって遮られる地形的要因により、年間を通じて温暖で降水量が少なく、夏には「大阪の蒸し暑さ」と表現されるほどの高温になります。このような特徴を持つ気候区分として最も適切な名称はどれですか。 (2022年 栃木県公立入試 類似)

1. 日本海側の気候                      2. 中央高地の気候                      3. 太平洋側の気候                      4. 瀬戸内式の気候